

特集：新収蔵作品

— 公開中のコレクション
— アーカイブ



『もしもし、奈良さんの展覧会はできませんか？』奈良美智展弘前2002-2006「ドキュメント展」
(弘前れんが倉庫美術館、2022-23年)での展示風景 Photo: Masayuki Hasegawa

細川葉子

《YOSHITOMO NARA + graf
A to Z》

2006年(2022年プリント) / 発色現像方式印画、額

2006年、吉井酒造煉瓦倉庫(現・弘前れんが倉庫美術館)で、展覧会「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」が開催されました。弘前市出身の奈良美智がクリエイティブ・ユニットgrafと協働し、AからZまでのタイトルを冠した小屋を建てて、煉瓦倉庫内を街並みに見立てた展覧会でした。小屋の内部には、奈良本人の作品をはじめ、親交のある作家の作品が展示されました。同展の公式記録として撮影された細川の写真では、ひとつひとつの小屋の細部の様子や、会場を作り上げる作家たちの姿が捉えられています。

ほそかわはこ 1974年福井県生まれ。東京都在住。1999年、日本大学芸術学部写真学科卒業。2004年より写真家として活動をはじめ。雑誌、広告のポートレートや静物、映画のスチール、展覧会のカタログなど多岐に渡って撮影。

その他収集した作品：《A to Z展のための箱》2022年

弘前れんが倉庫美術館では、これまでにアーティスト25組、167点の作品を収蔵してきました。今回の特集は、2023年度に収蔵した作品83点の中から一部を紹介します。

弘前れんが倉庫美術館では、以下の収集方針に基づき、コレクションを形成しています。

〈収集方針〉

- 1 記憶を宿した空間と共振する
— 煉瓦倉庫の持つ空間性・歴史性と響きあい、空間の魅力を最大限に引き出せる作品
- 2 世界への入り口になる
— 国内外の同時代的な美術の動向を明示する優れた作品
— 世界各地の諸問題及び多様な価値観に触れられる現代の作品
— 見知らぬ風景や人々との出会いを通じて生まれた、驚きと発見に満ちた現代の作品
- 3 地域から生まれる
— 弘前や津軽地方固有の風土、歴史、民俗、文化に根差した新たな価値を提示する現代の作品
— 弘前や津軽地方にゆかりのある現代作家による優れた作品、また、その作家・作品と深い影響関係にある作品
- 4 人をはぐくむ
— 将来を担う地域のこどもたちの未来に資する現代の作品
— 地域の人々に豊かな鑑賞体験をもたらし、対話やコミュニケーションを生み出す現代の作品



松山智一

《Hello Open Arms (両腕に掲げられ、両手を上げろ)》
2023年 / アクリル絵具・ミクストメディア、カンヴァス / 牧寛之氏寄贈

有機的な形のキャンバスに描かれた本作は、松山が近年取り組む「Fictional Landscape」シリーズの一点です。松山の作品は、日本や中国、ヨーロッパなどの伝統的な絵画からの引用や、ファッション誌の切り抜きなど、さまざまなイメージをサンプリングして生み出され、地域や場所、時代を超えた不思議な風景が広がっています。長年ニューヨークで制作する作家自身の異文化での経験や、情報にあふれる社会の姿が反映されています。

まつやま ともかず 1976年岐阜県生まれ、ブルックリン在住。絵画を中心に、彫刻やインスタレーションを発表。綿密なリサーチのもと、アジアとヨーロッパ、古代と現代、具象と抽象といった両極の要素を有機的に結びつけて再構築した作品を制作する。



新宮大史 《SUSANOO》

2023年 / アクリル絵具、カンヴァス / 牧寛之氏寄贈

新宮は、神話や歴史的なモチーフを、アニメーションやコミックといった現代的なフィルターを通じた解釈によって再構築するような作品を制作しています。本作では、作家の故郷である出雲神話の神・素戔嗚(すさのお)が、少年漫画に登場するようなヒーローのような姿として描かれています。松山智一のスタジオアシスタントとしてその緻密かつ多様な作品制作を支えるとともに、自身も国内外で作品を発表しています。

しんぐう たいし 1985年京都府生まれ、ニューヨーク在住。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業後、2021年にニューヨークに渡る。情報化された現代社会の問題点を軸に、歴史的なモチーフを取り入れた作品を制作している。

同じく松山スタジオに所属するアーティストたちの作品も収蔵しています。(全て牧寛之氏寄贈)
金和司《Leave My Head Alone Brain》2022年、鈴木拓良《Man on the MOON》2023年、藤本まり子《YAMAKAMI MINAKAMI》2021年、松下竜也《Lifism Society》2023年



「大巻伸嗣—地平線のゆくえ」(弘前れんが倉庫美術館、2023年)での展示風景 Photo: Keizo Kioku

大巻伸嗣 《Abyss - Jomon》

2023年 / 和紙にシルクスクリーン

「Abyss」とは、底知れぬ穴や深淵という意味の言葉。大巻が制作する、さまざまな時代と土地の失われた文明の壺の形がモチーフとなった版画シリーズのタイトルです。本作は、大巻が青森県内各地を制作のためのリサーチに訪れるなかで、複数の遺跡がある縄文時代の土器に着想を得て制作されました。一見黒一色の壺の表面には、古代の文字やさまざまな時代の植物文様などが重ね合わされ、過去の文明の存在と歴史に光を当てるのが試みられています。

おおまき しんじ 1971年岐阜県生まれ。神奈川県在住。環境や他者といった外界と、記憶や意識などの内界、その境界である身体の関係性を探り、三者の間で揺れ動く、曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るための身体的時空間の創出を試みる。

その他の収蔵作品：《A Blink of Eternity》2011年、《Liminal Air -core- 天 / 地 IWAKI》2023年、《Echoes Crystallization:Horizon》2023年(株式会社青南商事寄託)、他



永野雅子

《I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.》

2002年(2024年プリント) / 発色現像方式印画

《From the Depth of My Drawer》

2005年(2005年及び2024年プリント) / 発色現像方式印画 / 一部作家寄贈

当館の建物が美術館になる前、2002年、2005年、2006年に奈良美智の展覧会が開催されました。ボランティアたちの協力によって実現した展覧会の成功は、煉瓦倉庫をアートの拠点にという市民の声につながりました。写真家の永野は、それぞれの展覧会場が出来上がっていく様子や、展覧会に関わる人々の姿を3回に渡って撮影しています。本作は、細川葉子の写真とともに、当館誕生の大きなきっかけとなった展覧会の重要な記録です。

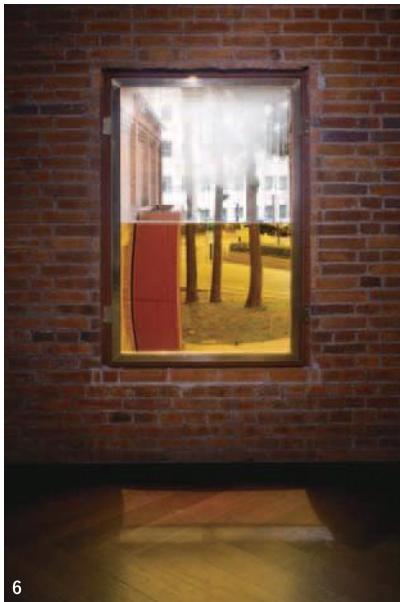
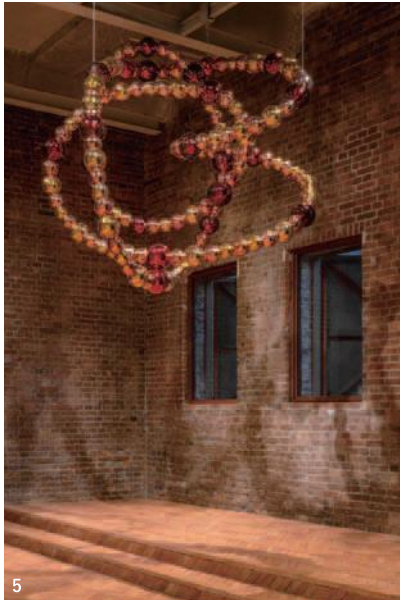
ながの まさこ 1971年埼玉県生まれ。埼玉県在住。雑誌、広告、web、書籍等でポートレートを中心に撮影。2004年に写真集「This is a time of... S.M.L. yoshitomo nara+graf」を発表。

その他の収蔵作品：《YOSHITOMO NARA + graf A to Z》2006年(2022年及び2024年プリント)(一部作家寄贈)



《From the Depth of My Drawer》

《I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.》[「もしもし、奈良さんの展覧会はありませんか?」奈良美智展弘前2002-2006ドキュメント展](弘前れんが倉庫美術館、2022-23年)での展示風景
Photo: Masayuki Hasegawa



1. 奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007年 作家寄贈 ©Yoshitomo Nara Photo: Naoya Hatakeyama
2. 大巻伸嗣《Oak Leaf -the Given- (Right)》2023年 株式会社青南商事寄託 Photo: Keizo Kioku
3. 斎藤麗《ニューボーン・フォッシル (生まれたての化石)》2021年 作家寄託 Photo: Sho Shibata
4. 尹秀珍《ポータブル・シティ：弘前》2020年 Photo: Keizo Kioku
5. ジャン＝ミシェル・オトニエル《エデンの結び目》2020年 Photo: ToLoLo studio
6. 和田礼治郎《AMBER WINDOW (HIROSAKI)》2022年 三上雅通氏寄贈 Photo: Keizo Kioku

Column 煉瓦倉庫豆知識

刻印されたレンガは、美術館とカフェの間にある「ミュージアム・ロード」に並んでいます

名前が刻まれたレンガの正体は？

弘前れんが倉庫美術館の敷地内にあるアルファベットが刻印されたレンガ。当館が開館する前の2019年、美術館を支援するため「ふるさと納税」で寄附をしてくださった方々と、美術館の「プレ会員」になってくださった弘前市民の皆さんのお名前と居住地が彫られています。北は北海道から、南はグアムまで、総勢144名の方が参加。美術館はたくさんの方々に支えられて活動を続けています。



弘前れんが倉庫美術館

[開館時間] 9:00~17:00 ※但し、金曜日・土曜日に限りスタジオ、ライブラリーのみ21:00まで開館
 [休館日] 火曜日 (祝日の場合は翌日に振替)、年末年始
 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1 [TEL] 0172-32-8950 [Mail] info@hirosaki-moca.jp
 当館には駐車場はございません ※お車でお越しの際は近隣の有料駐車場をご利用ください

[デザイン] デザイン工房エスパス [印刷] 凸版メディア株式会社
 [編集・発行] 弘前れんが倉庫美術館 (指定管理者 運営業務担当 エヌ・アンド・エー株式会社)
 [執筆] 作品解説: 佐々木蓉子 [発行日] 2025年1月10日

過去に開催されたアーティストトークなどの記録動画をYoutubeで公開しています。また、一部の展覧会は3DVRを美術館ウェブサイトからご覧いただけます。

アーティストトーク



「タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館 どうやってこの世界に生まれてきたの?」関連プログラム
 アーティストトーク
 2024年9月28日
 出演: 片山真理、田口美和
 聞き手: 木村絵理子



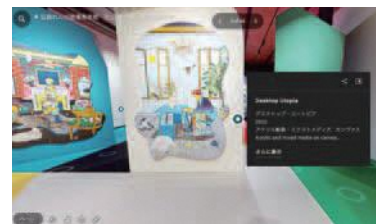
アーティストトーク



弘前エクステンジ
 #06「白神視見考」関連プログラム
 アーティストトーク「向こう側研究会」
 公開勉強会
 2024年6月1日
 出演: 佐藤朋子、永沢碧衣



3DVR



「松山智一展：雪月花のとき」3DVR

公開中の3DVRはこちら→

<https://hmoca-museum.note.jp/n/n63aed259b8b9>

